

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	窒化物ナノ局在系の物性制御によるテーラーメイド光源の実現
研究代表者	川上 養一（京都大学・大学院工学研究科・教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>応募者は、窒化物半導体の結晶成長、物性制御・計測、光デバイス応用に関して卓越した研究実績を上げており、国際的に高い評価を受けている。本研究は、InGaN半導体の3次元マルチファセット構造を作製することにより、広い波長領域で高い内部量子効率の発光素子を開発する独創的でチャレンジングな研究計画である。赤色領域の高効率化とプラズモン増強効果の利用について物理機構をより詳細に検討した上で、テーラーメイド光源が実現できれば、インパクトは大きく広い波及効果が期待できる。</p> <p>以上の理由により、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>